



行方市長  
伊藤 孝一

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆様方におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと思っております。

昨年10月2日に初登庁してから社会経済情勢が厳しさを増しているこの時期に、市政を預かる責任の重さに身の引き締まる思いでございます。「努力をすれば必ずできる」この信念の下、行方市発展のために頑張つてまいります。

昨年、政権交代が行われ、鳩山内閣が誕生しました。公約に掲げた政策を確実に実行するため、様々な施策が行われておりますが、景気低迷の中で、地域に配慮した予算編成を望むものであります。

鹿島アントラーズが前人未踏のJリーグ3連覇を達成したことは、ホームタウンでもある行方市民に勇気と希望を与えてくれました。今後のさらなる活躍を期待しております。

さて、平成22年度予算編成であります。基本方針は選択と集中による

事業の重点化としての活力プラン並びにソフト事業を中心とした市民向け施策を柱に、市民が安心して安全に生活できる市を実現するため、行政経営による市民生活重視の予算編成を考えております。

学校等適正配置については、子供の減少傾向が続いて小中学校の小規模化が顕著となり、さらに、学校の施設においては、老朽化が進んでいるため、学校の適正規模と安全・安心な学校づくりが求められております。平成21年度には、麻生地区の統合中学校の設計や麻生地区西浦側の統合する小学校の設計を行い、平成22年度には、さらに麻生地区北浦側の統合する小学校の設計に入り、それぞれ統合に向けて進めていくものであります。

行方市の主要産業は農業であります。農業の発展を重視しながら、関係団体との連携を深め、魅力ある農業の実現に向け、さまざまな媒体を通じた情報発信を通じ、農作物の地域ブランド化を進めていきたいと考えております。

新しい年が市民の皆様にとりましますます喜びの多い豊かな年であり、新年のごあいさつとお祈り申し上げます。



行方市議会議長  
平野 晋一

明けましておめでとうございませう。市民の皆様には、平成22年の輝かしい新春を健やかに迎えのこと、心からお喜び申し上げます。

平成21年は、国内外で様々な出来事がありました。北朝鮮のミサイル発射やメキシコを中心とした新型インフルエンザの発生、異常気象による集中豪雨など、安全で安心な生活を望む私たちにとって憂慮すべき出来事でした。

一方、天皇后両陛下が金婚式を迎えられ、また、御即位20周年を迎えられた年でもありました。あらためまして祝意を表するものであります。

政治においては、1月に米国に新大統領が就任し、わが国では、衆議院解散総選挙の結果、国の政治の大きな流れとして政権交代が行われました。わが国経済が依然厳しいとされる中、新政権の下で消費者庁が発足し、また、国の平成22年度予算編成にあたって「事業仕分け」などが

話題となりました。

行方市においても、合併して4年が経過する中、新市長が誕生し、新たな市政運営がスタートいたしました。私たち市議会といたしましても、教育環境などの社会基盤整備やその他の課題解決を促進していかねばなりません。市の財政状況は厳しく、政策の選択を迫られるのは必ずです。しかし、私たちは、本格的な地方分権時代を視野に入れ、効率的な行財政運営の中から必要な事業を実現するため、広範にわたり議会に与えられた役割を果たしていかねばなりません。

一向に上向かない不安定な経済状況の中で、皆様方の生活も一段と厳しさを増しているものと拝察いたしますが、市議会は、皆様方の、もう一方の代弁者として「市民のための行財政改革」や「誰もが将来にわたって、安心して暮らせる」まちづくりに向け、精一杯の努力をしております。今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、今年一年が、市民の皆様にとりまして幸せ多い年であり、すようお祈り申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。